

2026年6月20日(土)**臨床スキルアップセミナー**

◆ オンデマンド配信あり

9:00 ~ 10:20 | 第2会場 (ウインクあいち 6F 展示場604+605)

臨床スキルアップセミナー1 若手のためになる臨床Tips (クラウンブリッジ・インプラント・接着)

座長：木本 克彦（神歯大）、荻野 洋一郎（九州大）

[CSU1-座長] [座長抄録] 若手のためになる臨床Tips (クラウンブリッジ・インプラント・接着)

*木本 克彦¹、*荻野 洋一郎² (1. 神奈川歯科大学 歯科補綴学講座 クラウン・ブリッジ補綴学分野、2. 九州大学大学院歯学研究院口腔機能修復学講座)

[CSU1-1] 補綴歯科治療における顔貌情報の記録と伝達 ―アナログからデジタルまで―

*柏木 宏介¹ (1. 大阪歯科大学 歯学部 有歯補綴咬合学講座)

[CSU1-2] DX化の進む補綴治療とインプラント治療

*今 一裕¹ (1. 岩手医科大学 歯学部 歯科補綴学講座 冠橋義歯・口腔インプラント学分野)

[CSU1-3] 材料科学の視点から紐解くメタルフリー修復材料の接着と臨床術式

*猪越 正直^{1,2} (1. 東京科学大学 大学院医歯学総合研究科 口腔デバイス・マテリアル学分野、2. 東京科学大学 国際医工共創研究院 口腔科学センター)**臨床スキルアップセミナー**

◆ オンデマンド配信あり

10:30 ~ 11:50 | 第2会場 (ウインクあいち 6F 展示場604+605)

臨床スキルアップセミナー2 若手のためになる臨床Tips (有床義歯・睡眠・顎機能)

座長：尾澤 昌悟（愛院大）、都築 尊（福歯大）

[CSU2-座長] [座長抄録] 若手のためになる臨床Tips (有床義歯・睡眠・顎機能)

*尾澤 昌悟¹、*都築 尊² (1. 愛知学院大学歯学部有床義歯学講座、2. 福岡歯科大学咬合修復学講座有床義歯学分野)

[CSU2-1] 部分歯列欠損の補綴歯科治療―診査・診断と義歯設計

*渡邊 恵¹ (1. 徳島大学大学院医歯薬学研究部 口腔顎顔面補綴学分野)

[CSU2-2] 閉塞性睡眠時無呼吸患者に対する歯科的治療の勘所

*猪子 芳美¹ (1. 日本歯科大学新潟病院)

[CSU2-3] 若手補綴医のための咬合再構成の実際 ― 実臨床における判断と勘所 ―

*小川 徹¹ (1. 東北大学大学院歯学研究科 総合歯科学分野)

臨床スキルアップセミナー

◆ オンデマンド配信あり

■ 2026年6月20日(土) 9:00～10:20 | 会場 第2会場 (ウインクあいち 6F 展示場604+605)

臨床スキルアップセミナー1 若手のためになる臨床Tips (クラウンブリッジ・インプラント・接着)

座長：木本 克彦 (神歯大)、荻野 洋一郎 (九州大)

本セミナーでは、補綴歯科治療、インプラント治療をより確実に実践するための最新知識と実践的指針について3名の先生にご講演いただく。特に、口腔内スキャナーやナビゲーションシステムを含む歯科治療のワークフローや、口腔内だけでなく顔貌を含めた審美情報の記録とそれを臨床に生かすための手法について体系的に整理する。さらに、CAD/CAMを用いた材料、特にジルコニアなどのメタルフリーのための材料の特性と接着技法を材料科学の視点から整理し、長期予後を高める臨床術式について最新の知見を整理する場としたい。

[CSU1-座長] [座長抄録] 若手のためになる臨床Tips (クラウンブリッジ・インプラント・接着)

*木本 克彦¹、*荻野 洋一郎² (1. 神奈川歯科大学 歯科補綴学講座 クラウン・ブリッジ補綴学分野、2. 九州大学大学院歯学研究院口腔機能修復学講座)

[CSU1-1] 補綴歯科治療における顔貌情報の記録と伝達 ―アナログからデジタルまで―

*柏木 宏介¹ (1. 大阪歯科大学 歯学部 有歯補綴咬合学講座)

[CSU1-2] DX化の進む補綴治療とインプラント治療

*今 一裕¹ (1. 岩手医科大学 歯学部 歯科補綴学講座 冠橋義歯・口腔インプラント学分野)

[CSU1-3] 材料科学の視点から紐解くメタルフリー修復材料の接着と臨床術式

*猪越 正直^{1,2} (1. 東京科学大学 大学院医歯学総合研究科 口腔デバイス・マテリアル学分野、2. 東京科学大学 国際医工共創研究院 口腔科学センター)

臨床スキルアップセミナー

2026年6月20日(土) 9:00～10:20 | 第2会場 (ウインクあいち 6F 展示場604+605)

臨床スキルアップセミナー1 若手のためになる臨床Tips (クラウンブリッジ・インプラント・接着)

座長：木本 克彦 (神歯大)、荻野 洋一郎 (九州大)

[CSU1-座長] [座長抄録] 若手のためになる臨床Tips (クラウンブリッジ・インプラント・接着)

*木本 克彦¹、*荻野 洋一郎² (1. 神奈川歯科大学 歯科補綴学講座 クラウン・ブリッジ補綴学分野、2. 九州大学 大学院歯学研究院口腔機能修復学講座)

キーワード：デジタル技術、顔貌審美情報、材料特性

補綴歯科治療およびインプラント治療をより安全、確実に実践するためにアナログからデジタルへと進化する臨床技術を多角的に整理することが求められている。補綴歯科治療におけるデジタル化では、CAD/CAM冠や3Dプリント義歯、口腔内スキャナーを活用したワークフローを理解することが重要である。審美補綴治療においては、補綴歯科治療の対象となる部位はもちろんであるが、審美補綴における顔貌情報の臨床術式への応用が、アナログな手法では限られていたこともデジタル化（デジタルフェイスボウや3D顔面スキャンの応用）によって具現化することが可能となっている。さらに、インプラント埋入術式においては、静的ナビゲーションから動的ナビゲーションとそのデジタル支援技術は進歩しており、より安全で確実なインプラント埋入術式が可能となっている。しかしながら、これらを臨床で生かすためにもその落とし穴についても熟知する必要がある。さらに、補綴歯科治療では欠かすことのできない補綴歯科装置の材料については、CAD/CAM用コンポジットレジン、ニケイ酸リチウムガラス、高透光性ジルコニアなど多様なメタルフリー材料の材料科学的特性と接着技法について理解し、症例に応じて選択することも重要である。本セミナーでは3名の先生方にこのような視点でご講演いただき、デジタル技術を適切に取り入れつつ、材料特性と審美基準を踏まえた補綴歯科治療、インプラント治療を実践するための包括的な視点を学ぶ場としていきたい。

臨床スキルアップセミナー

2026年6月20日(土) 9:00 ~ 10:20 | 第2会場 (ウインクあいち 6F 展示場604+605)

臨床スキルアップセミナー1 若手のためになる臨床Tips (クラウンブリッジ・インプラント・接着)

座長：木本 克彦 (神歯大)、荻野 洋一郎 (九州大)

[CSU1-1] 補綴歯科治療における顔貌情報の記録と伝達 ―アナログからデジタルまで―

*柏木 宏介¹ (1. 大阪歯科大学 歯学部 有歯補綴咬合学講座)

キーワード：顔貌審美情報、フェイスボウトランスファー、デジタルフェイスボウ

審美的補綴装置の多くは間接法で製作される。すなわち補綴装置は歯列模型上で形態が付与されるため、治療の成否は診療室から歯科技工所への情報伝達の精度に強く依存する。しかし歯列模型のみでは、瞳孔線や顔面正中線といった顔貌の審美的フレームを再現できず、歯科技工士が患者を直接観察しない制約下では、模型の向きが不明確なまま審美判断が行われやすい。さらに顔貌は本質的に非対称であり、単一の基準線への依存は破綻し得る。本講演では、補綴歯科治療における顔貌情報の記録と伝達について、アナログからデジタルまでの手法を概説する。まず移送すべき審美的情報として、水平基準（瞳孔線・口角線）、垂直基準（顔面正中線・歯列正中線）、咬合平面カント・切縁ライン、口唇ラインと微笑線（スマイルライン）を整理し、各パラメータの知覚閾値と臨床的許容範囲を提示する。次に、これらの基準線の見え方が頭位に依存して変化する点に着目し、自然頭位と真の水平を頭蓋外基準として導入した記録・補正・転送の枠組みを示す。アナログ手法では、フェイスボウの審美的役割と誤差の発生機序、水準器等による補正法、専用転写装置の系譜を紹介する。デジタル手法では、顔貌写真による情報伝達、2D-3Dデータ統合、デジタル咬合器・デジタルフェイスボウ、3D顔面スキャンによるバーチャル患者構築を取り上げる。若手臨床家が日常臨床で顔貌情報を意識的に記録し技工側へ伝達するための実践的指針を提供したい。

臨床スキルアップセミナー

2026年6月20日(土) 9:00 ~ 10:20 | 第2会場 (ウインクあいち 6F 展示場604+605)

臨床スキルアップセミナー1 若手のためになる臨床Tips (クラウンブリッジ・インプラント・接着)

座長：木本 克彦 (神歯大)、荻野 洋一郎 (九州大)

[CSU1-2] DX化の進む補綴治療とインプラント治療

*今一裕¹ (1. 岩手医科大学 歯学部 歯科補綴学講座 冠橋義歯・口腔インプラント学分野)

キーワード：デジタル歯科治療、CAD/CAM、インプラント

近年、歯科医療におけるデジタル技術は急速に発展している。保険診療においても、CAD/CAM冠、CAD/CAMインレーおよび3Dプリントによる総義歯が導入され、臨床応用が拡大している。インプラント治療においても、口腔内スキャナーの応用により、術前検査、埋入手術シミュレーション、補綴装置の製作まで、デジタル機器の活用によるシームレスな医療提供が可能となっている。特に埋入手術においては従来型のサージカルテンプレートを用いた静的ナビゲーションシステムだけでなく、リアルタイムで窩洞形成、埋入位置が把握できる動的ナビゲーションシステムの臨床応用も広がっている。しかしながら、従来アナログで行われていた処置、すべてをデジタルに置き換えるのは現時点では憂慮がのこる。口腔内スキャナーによる天然歯の印象は、光学式であるため歯肉縁下に形成されたフィニッシングラインの再現は困難となり、インプラントの印象は、既製品を使用するため、デジタル手法と親和性が高いが、全顎的な印象採得においては画像データのゆがみが生じるため、正確性を欠いてしまう。本スキルアップセミナーでは、若手歯科医師がデジタル手法をスムーズに取り入れるため、補綴治療およびインプラント治療におけるワークフローを概説し、日常臨床における『流れ』を理解し実践的な指針を提供することを目的とする。

臨床スキルアップセミナー

2026年6月20日(土) 9:00 ~ 10:20 | 第2会場 (ウイנקあいち 6F 展示場604+605)

臨床スキルアップセミナー1 若手のためになる臨床Tips (クラウンブリッジ・インプラント・接着)

座長：木本 克彦 (神歯大)、荻野 洋一郎 (九州大)

[CSU1-3] 材料科学の視点から紐解くメタルフリー修復材料の接着と臨床術式

*猪越 正直^{1,2} (1. 東京科学大学 大学院医歯学総合研究科 口腔デバイス・マテリアル学分野、2. 東京科学大学 国際医工共創研究院 口腔科学センター)

キーワード：ジルコニア、二ケイ酸リチウムガラス、接着

近年の歯科デジタル技術の急速な普及に伴い、CAD/CAM用コンポジットレジン、二ケイ酸リチウムガラス、および高透光性ジルコニアといった多種多様なメタルフリー材料が臨床の第一選択となりつつある。これらの材料は優れた審美性と生体親和性を有する一方で、従来の金属材料とは根本的に異なる物理的・化学的性質を持っており、その長期的な臨床予後を確認するためには、各材料に最適化されたハンドリングと接着技法の習得が不可欠である。

特に、セラミックス材料における摩耗特性の理解は、対合歯保護および咬合安定の観点から極めて重要である。二ケイ酸リチウムガラスは、高い透光性による優れた審美性を持つが、長期経過後の対合歯の摩耗が報告されている。一方で、ジルコニアにおいては、対合天然歯を著しく摩耗させる可能性が懸念されてきた。しかし近年の研究では、十分な研磨処理を施したジルコニア表面は、むしろ従来の陶材よりも対合歯への侵襲が低いことが示唆されている。これらの知見は、臨床における最終研磨の質が、単に装置の寿命だけでなく、口腔全体の予後に直結することを示唆している。

本講演では、セラミック材料を中心に、これらメタルフリー材料の基礎的な材料特性を改めて概説するとともに、それぞれの被着面に応じた最新のエビデンスに基づく接着手法を包括的に整理する。材料の性質に合わせた接着操作を再確認することで、偶発的な脱離や破折を未然に防ぎ、明日からの臨床における補綴治療の信頼性を高めるための指針を提示したいと考えている。

臨床スキルアップセミナー

◆ オンデマンド配信あり

■ 2026年6月20日(土) 10:30～11:50 | 会場 第2会場（ウインクあいち 6F 展示場604+605）

臨床スキルアップセミナー2 若手のためになる臨床Tips（有床義歯・睡眠・顎機能）

座長：尾澤 昌悟（愛院大）、都築 尊（福歯大）

補綴歯科専門医資格に国民が寄せる期待は大きい。一方で多岐にわたる領域を含む歯科補綴領域の生涯学習のためには、補綴歯科専門医を目指す若手歯科医師にとって中間目標が必要と考えられる。本セミナーでは、基本的な診査・診断に基づいた義歯設計、オクルーザルアプライアンス、顎機能にフォーカスをあて、補綴歯科専門医を目指す若手歯科医師に明日から役に立つ臨床Tipsについてご講演いただく。

[CSU2-座長] [座長抄録] 若手のためになる臨床Tips（有床義歯・睡眠・顎機能）

*尾澤 昌悟¹、*都築 尊² (1. 愛知学院大学歯学部有床義歯学講座、2. 福岡歯科大学咬合修復学講座有床義歯学分野)

[CSU2-1] 部分歯列欠損の補綴歯科治療－診査・診断と義歯設計

*渡邊 恵¹ (1. 徳島大学大学院医歯薬学研究部 口腔顎顔面補綴学分野)

[CSU2-2] 閉塞性睡眠時無呼吸患者に対する歯科的治療の勘所

*猪子 芳美¹ (1. 日本歯科大学新潟病院)

[CSU2-3] 若手補綴医のための咬合再構成の実際－実臨床における判断と勘所－

*小川 徹¹ (1. 東北大学大学院歯学研究科 総合歯科学分野)

臨床スキルアップセミナー

2026年6月20日(土) 10:30 ~ 11:50 | 第2会場 (ウイंकあいち 6F 展示場604+605)

臨床スキルアップセミナー2 若手のためになる臨床Tips (有床義歯・睡眠・顎機能)

座長：尾澤 昌悟 (愛院大)、都築 尊 (福歯大)

[CSU2-座長] [座長抄録] 若手のためになる臨床Tips (有床義歯・睡眠・顎機能)

*尾澤 昌悟¹、*都築 尊² (1. 愛知学院大学歯学部有床義歯学講座、2. 福岡歯科大学咬合修復学講座有床義歯学分野)

キーワード：部分床義歯設計、閉塞性睡眠時無呼吸、咬合再構成

補綴歯科専門医には、欠損補綴や咬合、顎機能評価といった専門領域にとどまらず、全身状態への配慮、医科との連携、患者の生活・心理社会的要因を踏まえた包括的な診療能力が求められる。さらに、診査・診断から治療計画の立案、補綴装置の選択、治療介入の適否判断、長期予後を見据えたフォローアップに至るまで、多面的かつ統合的な思考が不可欠である。とりわけ若手歯科医師にとっては、日々の臨床の中で個々の技術を積み重ねるだけでなく、補綴歯科医としての臨床の軸となる考え方を体系的に学ぶ機会が重要である。

本セッションでは、補綴臨床の三つのテーマ、すなわち①義歯設計、②閉塞性睡眠時無呼吸、③咬合再構成にフォーカスする。まず渡邊先生には、部分歯列欠損症例に対して、欠損に至るまでの経緯と今後の変化を見据え、欠損歯列を連続した慢性疾患として捉えた診査・診断に基づく義歯設計の考え方をお示しいただく。次に猪子先生には、閉塞性睡眠時無呼吸に対する歯科の役割として、医科の診断を前提とした口腔内装置治療の実際、検査データの読み取り方、治療効果の評価方法、さらに医科との円滑な連携のポイントを解説していただく。さらに小川先生より、若手補綴医が不安を抱きやすい咬合再構成について、治療介入の是非や優先順位の判断基準、顎機能を踏まえた咬合付与、補綴装置選択の基本原則、過度な再構成を避けるための視点など、実症例に基づいた実践的な知見を共有していただく。

本セミナーは若手歯科医師の臨床における悩みを打破するきっかけになると確信している。

臨床スキルアップセミナー

2026年6月20日(土) 10:30 ~ 11:50 | 第2会場 (ウイंकあいち 6F 展示場604+605)

臨床スキルアップセミナー2 若手のためになる臨床Tips (有床義歯・睡眠・顎機能)

座長：尾澤 昌悟 (愛院大)、都築 尊 (福歯大)

[CSU2-1] 部分歯列欠損の補綴歯科治療－診査・診断と義歯設計

*渡邊 恵¹ (1. 徳島大学大学院医歯薬学研究部 口腔顎顔面補綴学分野)

キーワード：部分床義歯、欠損歯列、義歯の設計

令和6年の歯科疾患実態調査では8020運動の達成者が61.5%であったが、同時に80歳以上の部分床義歯装着者は50%を超えていた。同調査で発表された1人平均喪失歯数は70歳以上で6.7本、85歳以上では約14本であり、超高齢社会の我が国において欠損補綴の需要が極端に減ることとはなく、まだしばらくは可撤性義歯による治療が求められると考えられる。

予知性の高い欠損補綴治療を行う上で考えなければならないことは、欠損に至るまでのヒストリーと、欠損が今後どのように展開していくのかという予測で、欠損歯列を連続した慢性疾患と捉えて対応する必要がある。部分床義歯による治療は欠損形態や咬合関係、支台歯の位置や状態など症例のバリエーションが多彩で、どの患者にも当てはまる完璧な治療方法というものはおそらくないが、欠損に至る経緯を踏まえた上での症例に応じた考え方や診断にはある程度の道筋があると思われる。部分床義歯治療を成功に導くためには、基本知識を整理して、的確に診査・診断し、それに基づいた治療計画を立てて実行することが重要であることは他の歯科治療と同様である。

本講演では、補綴歯科専門医を目指す若手の歯科医師に向けて、欠損補綴治療に必要とされる考え方や部分床義歯の設計についてお話しさせていただく。

臨床スキルアップセミナー

2026年6月20日(土) 10:30 ~ 11:50 | 第2会場 (ウインクあいち 6F 展示場604+605)

臨床スキルアップセミナー2 若手のためになる臨床Tips (有床義歯・睡眠・顎機能)

座長：尾澤 昌悟 (愛院大)、都築 尊 (福歯大)

[CSU2-2] 閉塞性睡眠時無呼吸患者に対する歯科的治療の勘所

*猪子 芳美¹ (1. 日本歯科大学新潟病院)

キーワード：睡眠障害、閉塞性睡眠時無呼吸、口腔内装置

閉塞性睡眠時無呼吸 (OSA: Obstructive Sleep Apnea) は、睡眠中に気道の閉塞または狭窄により無呼吸や低呼吸を繰り返す疾患です。未治療で放置すると心血管疾患などの原因となるばかりでなく、最近では認知症リスクの増大も指摘され、患者の生命予後に関係する疾患です。また、昼間の激しい眠気のために交通事故や労災のリスクが増し、仕事上のミスの原因にもなります。OSAに対する治療法は対症療法がほとんどですが、一般的な歯科医師が直接関われるのは口腔内装置 (OA) 治療です。OSA用OA治療は2004年に社会保険診療報酬に導入されていますが、現在もOA治療は医科の診断に基づく治療であり、歯科単独で取り組むことはできません。したがって、医科との連携が必須となります。本セミナーでは、医科との連携において必要となるOSAに関する基本的な知識や検査のデータの読み方、実際のOAの製作方法、OAの治療効果判定、医科とのスムーズな連携についてお話をさせていただきます。また、OA装着に十分に効果が得られない場合、押さえておかなければいけないOSA以外の睡眠障害についてなど、明日からの臨床にすぐ利用できる内容となっております。

臨床スキルアップセミナー

2026年6月20日(土) 10:30 ~ 11:50 | 第2会場 (ウイंकあいち 6F 展示場604+605)

臨床スキルアップセミナー2 若手のためになる臨床Tips (有床義歯・睡眠・顎機能)

座長：尾澤 昌悟 (愛院大)、都築 尊 (福歯大)

[CSU2-3] 若手補綴医のための咬合再構成の実際 — 実臨床における判断と勘所 —

*小川 徹¹ (1. 東北大学大学院歯学研究科 総合歯科学分野)

キーワード：咬合再構成 (実臨床)、補綴装置選択 (判断の勘所)、顎機能異常 (鑑別と対応)

補綴臨床において咬合再構成は、補綴歯科治療の醍醐味ともいえる、補綴医の技術と知識を集結させる治療である。一方で若手歯科医師にとっては、治療開始にあたり「介入すべきかどうか」そのものに相応の覚悟を要し、「どこまで介入すべきか」「何を基準に判断すべきか」

「治療介入の優先順位」といった点において、治療介入に際し治療介入に際し不安が多い治療である。実臨床では、歯質・歯列の欠損、咬耗、補綴装置の不調和、顎機能異常などが複合的に関与し、単純な形態回復のみを考慮した治療では、治療自体が奏功しない場合や十分な治療成果や長期的予後が得られない症例も少なくない。

本セミナーでは、咬合再構成を特別な治療としてではなく、日常臨床の延長線上に位置づけ、診断から治療介入に至るまでの実践的な考え方を、私が経験した臨床症例を通して解説する。治療介入に必要な判断の要点、顎機能を踏まえた咬合付与、補綴装置選択の基本原則、過度な再構成を避けるための視点、さらに注意を要する症例への対応など、日常診療に直結する臨床Tipsを提示する。

咬合・補綴に起因した歯列の問題のみに捉われるのではなく、顎機能、患者の全身的状态や心理社会的背景を含めた包括的視点の重要性を感じてもらうとともに、若手歯科医師が日常診療において一歩踏み出すための実践的な感覚を共有したい。